



# 令和5年度丹波県民局主要施策

令和5年2月3日

兵庫県丹波県民局



# 目次

<b>令和5年度 県民局施策のポイント</b>	1
<b>◆「森」の保全と活用―守り、活かす―</b>	
<b>拡</b> ① 丹波の里山づくりの促進(アクティブ・フォレスト・プロジェクト)	2
<b>拡</b> ② 丹波の環境パートナーシップづくり	3
③ 桜づつみ回廊の美観保全	3
<b>◆集落、まちの創生―居心地の良い「場」の創出―</b>	
<b>拡</b> ① 活力ある農村集落づくりの推進	4
<b>拡</b> ② まちの拠点創造プロジェクト	4
③ 学生等による地域貢献活動の推進	5
<b>◆新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり</b>	
<b>拡</b> ① 先端技術等を活用したスマート農業の推進	5
<b>拡</b> ② 兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信	6
③ 食文化ツーリズムプロジェクト	6
④ 四季の丹波「コト体験」の充実	6
<b>拡</b> ⑤ 恐竜化石フィールドミュージアムの推進	7
<b>拡</b> ⑥ “シリ丹バレー”構想の推進	7
<b>◆柔軟な働き方が可能な社会の形成</b>	
<b>拡</b> ① “シリ丹バレー”構想の推進(再掲)	8
<b>◆創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上</b>	
<b>新</b> ① グローカル丹波2025推進事業	8
② “もりびと”育成事業	9
③ たんばユース躍動プロジェクト	9
<b>拡</b> ④ シューベルティアードたんばの支援	9
<b>◆人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現</b>	
<b>新</b> ① 丹波型事業共創コミュニティ(パートナーシップ)の構築(“シリ丹バレー”構想の推進)	10
② 丹波2050地域ビジョンの推進	12
③ スマート・コミュニティ・プロジェクト(“シリ丹バレー”構想の推進)	12

# 令和5年度県民局施策のポイント

★は新たな取組

## 丹波2050地域ビジョンの推進—シンボルプロジェクトの展開加速化

- 「丹波2050地域ビジョン」のシンボルプロジェクトの着実な推進を図り、令和5年度に成果の発現をめざす
- 地域ビジョン推進組織「プラットフォームTAMBA」の活動を促進<丹波2050地域ビジョン推進事業>

## 2025大阪・関西万博に向けた事業始動

- 大阪・関西万博時に開催する国際イベント(森の国際会議、シューベルティアーデ国際音楽祭の開催)の検討作業に着手し、プレ事業を実施<★グローバル丹波2025推進事業、アクティブ・フォレスト・プロジェクト>
- 丹波地域のフィールドパビリオンの内容充実、相互連携に取り組む<★グローバル丹波2025推進事業、恐竜化石フィールドミュージアム、四季の丹波「コト体験」の充実等>

## 事業創造による関係人口拡大、移住環流促進、集落活性化

- シリ丹バレー構想での事業創造を通じて、関係人口(副業人材等)拡大、二地域居住、移住環流を促進するとともに、集落の活性化に取り組む<シリ丹バレー構想:★丹波型事業共創コミュニティ(パートナーシップ)の構築>

## 若者とともに進める地域づくりの推進

- 未来を担う若者へのふるさと教育や起業教育を進めるとともに、若者の活動の場づくりや若者のアイデアを地域づくりに活かす取組を推進<まちの拠点創造プロジェクト:★まちの居場所づくり、シリ丹バレー構想:★ユース起業アカデミー、学生等による地域貢献活動の推進、もりびと育成事業、丹波2050地域ビジョン推進事業:たんばユースチーム>

## スマート技術の実装・導入促進

- 集落等におけるスマート技術の実装を促進するとともに、スマート農林業を推進<スマートコミュニティ・プロジェクト、先端技術等を活用したスマート農業の推進、シリ丹バレー構想:★ウッドバレープロジェクト等>

## ◆「森」の保全と活用―守り、活かす―

### ① 丹波の里山づくりの推進（アクティブ・フォレスト・プロジェクト）〔拡充〕

里山づくりの多様な担い手（もりびと）育成にあたるとともに、里山づくり活動団体を支援し、その取組を広く発信し、経済性や収益性を考慮した持続的な里山づくり活動を推進する。

- ・ 裾野を広げる里山育成研修会の開催
- ・ 多様な担い手育成のための伐採・搬出実技研修会の開催
- ・ 里山活動団体へのアドバイザー派遣
- ・ 里山ワンストップ窓口としてのポータルサイトの運営
- ・ 里山資源を活用した里山交流企画の実践実証
  - 万博を見据えた里山体験メニュー等の充実 他
- ・ **「丹波の森国際会議」（仮称）準備会の設置〔新規〕**
  - 丹波の森とウィーンの森との交流30周年を記念し、2025年に開催する国際会議に向けた準備作業の着手



里山づくり育成研修会（薪作り体験）



第2回丹波の森国際会議  
海外参加者の模様

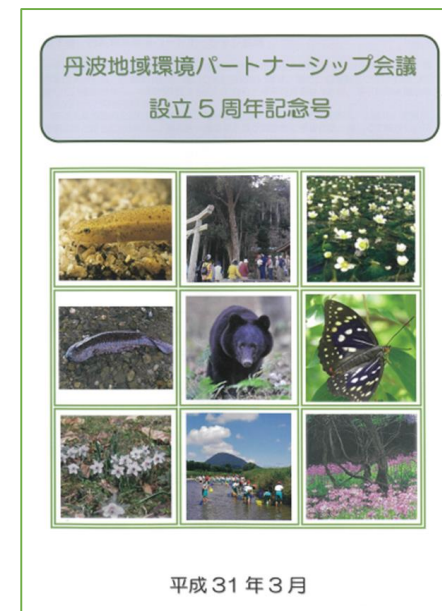


## ② 丹波の環境パートナーシップづくり 〔拡充〕

平成25年に県、市、住民団体等が連携して環境保全・創造を推進するために設立した「丹波地域環境パートナーシップ会議」が来年度で10周年を迎えることから、記念誌発行等の取組を実施する。

- ・ SDGs推進に向けた生物多様性保全とバイオマスエネルギー活用をテーマとするセミナーの開催。〔拡充〕
- ・ 県内小・中学生等を対象としたエコツアーと化石発掘体験を組み合わせたサステナブルツアーの実施。〔新規〕

（「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会」と共催）



設立5周年記念号の表紙

## ③ 桜づつみ回廊の美観保全

- ・ 桜づつみ回廊の樹勢回復対策（R5：川代恐竜街道（篠山川沿い））

※R5で終了



篠山川沿いの桜づつみ



位置図

# ◆集落、まちの創生—居心地の良い「場」の創出—

## ① 活力ある農村集落づくりの推進〔拡充〕

(地域農業の担い手育成・農地のフル活用推進、地域でため池を守るプロジェクト)



ため池看板の設置 (丹波篠山市 鍋塚池)

- ・ 農地や担い手に係る「地域計画」の策定推進
- ・ 農地のレベルアップ整備に必要となる計画策定支援、獣害防止・雑草抑制を目的とした新技術の実証実施〔拡充〕
- ・ ため池の魅力発信、かいぼりの実施



電気柵設置場所への鉄鋼スラグ材敷設例

## ② まちの拠点創造プロジェクト〔拡充〕

- ・ 多拠点居住やテレワーク等、新たな暮らし方、働き方に対応した複合的な都市機能のあり方の提案
  - J R 柏原駅南にある県有地と駅北市街地、丹波の森公苑からなる柏原交流ゾーンの都市機能のあり方を踏まえて、駅南用地の利活用を検討することにより、拠点としての新たな可能性を提案
- ・ **まちの居場所づくり～放課後みちくさプロジェクト～**〔新規〕
  - 柏原高校の生徒等に放課後等の空き時間を過ごせる居場所として、柏原スタジオを開放
  - 高校生と地域や大学生等との交流・体験の場としての活用も試行





### ③ 学生等による地域貢献活動の推進

学生の活力や知恵、経験等を活かした地域の活性化を推進するため、大学生等で構成する団体が、自治会などの地域団体と連携して自主的に実施する活動に支援する。



竹林整備で伐採した竹材を利用して改修したバス待合所(関西大学:福住地区)

## ◆新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

### ① 先端技術等を活用したスマート農業の推進 [拡充]

「丹波型スマート農業」の確立とその普及拡大を推進。

- ・ 衛星画像等データを用いた施肥量自動調整システムの実証 [新規]
- ・ 果樹におけるスマート農業技術の実証 [新規]  
→ ドローン等による栗の病害虫防除手法及び効果の検証
- ・ スマート農業技術シェアリングシステムの導入地区の拡大 [拡充]
- ・ スマート農業機械の導入支援 等



ドローンによる栗園での農業散布



衛星画像による地力解析により自動生成した可変施肥マップ

## ②兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信〔拡充〕

企画・開発、生産、加工・流通販売、飲食、観光部門等の事業者間の連携促進などによるブランド農産物の高付加価値化や新たな加工食品の開発・販売拡大を推進。

- ・ **新商品等魅力向上の応援〔新規〕**  
→ 農業生産者等に対し新商品開発経費を支援
- ・ 各種ブランド農産物フェアの開催



開発された新商品

## ③ 食文化ツーリズム・プロジェクト

丹波の産物や食文化、暮らしの魅力、つくる人の思いを、五感で体感できる旅「丹波の食文化ツアー」を大学と連携して造成し、令和5年度に旅行商品としての販売を目指す。



地元食材を使った農家民宿の料理

## ④ 四季の丹波「コト体験」の充実

丹波特有の地域資源を活かしたユニークなコト体験プログラムの開発・充実を支援し、マイクロツーリズムを推進する。



陶芸体験



## ⑤ 恐竜化石フィールドミュージアムの推進 【拡充】

- ・ 恐竜サポーターの拡大（R5年度目標：400人）
- ・ 出前発掘体験（アウトリーチ事業）、モバイルスタンプラリーの実施
- ・ **サステイナブルツアーの実施【新規】**（再掲）
  - ひょうごフィールドパピリオンで提供するSDGs体験型地域プログラムの充実のため、恐竜化石体験に環境学習を取り入れたサステイナブルツアーを実施する。
- ・ 民間企業（企業部会）と連携したフィールドミュージアム拠点施設への誘客等の取組や関連商品の開発を進める。
  - コト体験等のメニュー、AR（拡張現実）アプリ開発ほか



出前化石発掘体験会〔アウトリーチ事業〕  
（舞子公園）



丹波竜実物大模型と恐竜遊具

## ⑥ “シリ丹バレー” 構想の推進 【拡充】

内外の産学官民のネットワーク形成を進め、地域発イノベーションの創出・創発を促進するエコシステムの構築を図る。

- ・ DX推進セミナーの開催、ウェブサイトによる情報発信 等
- ・ コワーキング・スペースのハブ機能の促進【拡充】
  - 地域内外のコワーキングスペースのネットワーク化により、地域事業創造の拠点としての機能を強化（コワーキングスペースでの事業創造セミナーの定期開催）
- ・ **ウッドバレー・プロジェクトの推進【新規】**
  - 木材関連産業を循環型地域経済の核と位置づけ、丹波産木材の生産拡大、流通・加工の促進、関連産業の裾野拡大を目的に木材関連産業創造ネットワークの形成を図り、新事業創出をめざす。
- ・ 資金調達にあたっての中小企業技術・経営力評価制度、クラウドファンディング等の活用支援



関経連松本会長（写真中央）と齋藤知事（写真左）による視察の様子（丹波篠山市大山地区）

## ◆柔軟な働き方が可能な社会の形成

### ① “シリ丹バレー” 構想の推進 [拡充] (再掲)

- ・ 女性起業ネットワークの内外との交流促進
- ・ 民間副業人材の活用
  - 丹波管内企業が求める人材（IT技術者、クリエイター等）を確保するため、大都市圏在住者に向け働きかけを行うとともに、関西経済連合会と連携して、民間人材登用システムを構築する。
- ・ **ユース起業アカデミーの開設 [新規]**
  - 若者を対象にふるさと起業や起業経営について学ぶセミナーを1年間にわたって開催



たんば女性起業家ネットワーク

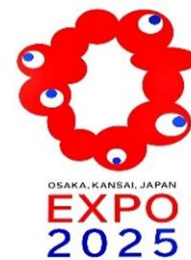
## ◆創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上

### ① グローカル丹波2025推進事業 [新規]

- 2025年の万博に向け、関係者で課題や情報を共有し、丹波地域におけるフィールドパビリオンを国内外に向け、効果的に発信する準備を進める。
- グローカル丹波推進委員会の立ち上げ



フィールドパビリオンロゴ



## ② “もりびと” 育成事業

丹波地域の児童・生徒がその発達段階に応じて、ふるさとの自然環境や歴史、文化、特産物等について学習・研究活動を行い、その成果を発信することで、丹波地域が持つ魅力の新たな発信、ふるさと意識の醸成を図る。

→ まちの自慢発信事業、丹波の森若者塾開催

## ③ たんばユース躍動プロジェクト

「丹波縄文の森塾」への参加経験のある青少年などが、自然の中で感性を磨き、生きる力、ふるさと意識を再認識できるよう、丹波の森の再生と植物の活用方法、野生動物と人との共生方法などを学ぶ機会を提供し、自然の中で感性を磨き、生きる力、ふるさと意識を再認識する機会を創出する。



## ④ シューベルティアーデたんばの支援【拡充】

・ 丹波の森・ウィーンの森国際交流30周年を記念するコンサートの開催【新規】

→ウィーン等海外から演奏家を招いた記念コンサートの開催

・ ふるさと音楽広場への支援



1st(1995年) たんば田園交響ホールにて  
(25周年記念誌より)

## ◆人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティの出現

### ① 丹波型事業共創コミュニティ（パートナーシップ）の構築（“シリ丹バレー”構想の推進）【新規】

地域課題の解決に資するビジネスや地域資源を活かしたビジネスの創造を促進するため、草の根（地区）単位でのオープンイノベーションの仕組みとして「丹波型事業共創コミュニティ（パートナーシップ）」の構築を図る。

[事業共創コミュニティの構成メンバー]

{  
・地域：地域（市民）起業家、地元企業、地域団体（まち協・自治協）  
・外部人材：若手専門（副業）人材、若手大学教員、学生インターン 等 } =事業共創チーム  
・支援機関：行政（県民局・両市）、地域経済団体（商工会等）、地域金融機関、広域経済団体（関経連）

[事業共創チーム（＝デジタルコミュニティ）の結成・運用]

- ・事業共創にあたって必要な専門人材等を内外に公募し「事業共創チーム」を結成
- ・チームでは、課題発掘からビジネスモデルの構築、事業の展開までをオンラインベースで推進

[事業共創パートナーの登用]

- ・丹波に愛着を抱いている起業家・事業家等を「事業共創パートナー」に登用し、コミュニティ・メンバー間の交流・連携を促進

[期待される成果＝事業創造×移住還流×地域再生]

- ・地域課題の解決につながる事業創造、外部人材の関係人口化、移住環流促進、産業活性化による地域再生

[ポイント:事業共創コミュニティができることで何が変わる?]

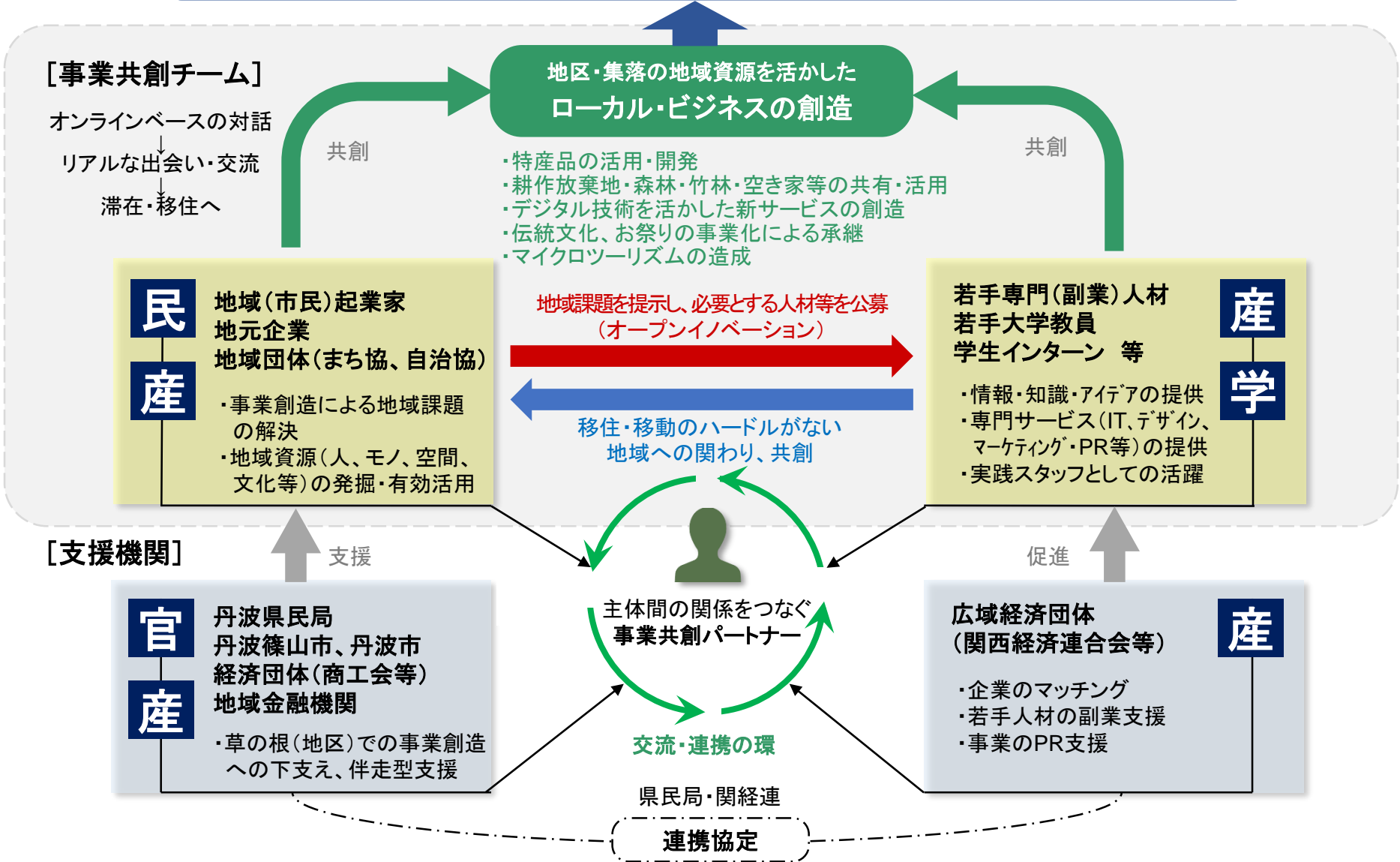
- －地域の課題解決や資源の有効活用につながる事業創造が進展
- －地域で不足する専門人材や事業資金の確保が容易に
- －都市部等の人材に‘移住・移動を伴わない’副業や社会貢献の機会を提供
- －新たな人材、資金、技術の流入で、地域社会が活性化
- －内外に開かれたコミュニティの形成によって地域に新たなつながりが誕生





# <丹波型事業共創コミュニティ概念図>

期待される成果としてのSocial Impact  
 社会課題解決、関係人口拡大、移住環流促進、生活の質向上、産業活性化、地域再生



## ② 丹波2050地域ビジョンの推進

地域ビジョンに掲げる将来像の実現に向け、シンボルプロジェクト毎に設置されたプロジェクトチームが主体的に事業の推進を図る。たんばユースチームでは、若者の目線から地域ビジョンの推進に資する提言を行うとともに、自主事業の企画・実施にあたる。

地域ビジョンの推進組織である「プラットフォームTAMBA」では、全体のフォローアップのほか、プロジェクト間の連携やたんばユースチームの提案のプロジェクトへの反映などに取り組む。



プラットフォームTAMBA設立会議



たんばユースチームの活動

## ③ スマート・コミュニティ・プロジェクト（“シリ丹バレー”構想の推進）

暮らしやすい持続可能な地域社会の実現に向けたスマート技術導入のあり方を検討する。

- 両市が取り組む地域集落が抱える様々な課題解決に向け、デジタル技術の活用を提案
- デジタル革新の動向、Society5.0（超スマート社会）の潮流を踏まえ、技術の社会実装に係る先導的な提言を行う

### 〈提案内容〉

- ・各所に存在するデジタルデータの有効活用に向けた「データ連携基盤」の構築
- ・地域住民のサービス利便性向上に向けた「地域アプリ」の導入